

～2010年3月29日～

## 明治大学平和教育登戸研究所資料館 開館

明治大学平和教育登戸研究所資料館のオープニングセレモニーが、3月29日、川崎市、旧登戸研究所の保存を求める川崎市民の会、旧登戸研究所関係者及び大学関係者ら120名が列席して行われました。

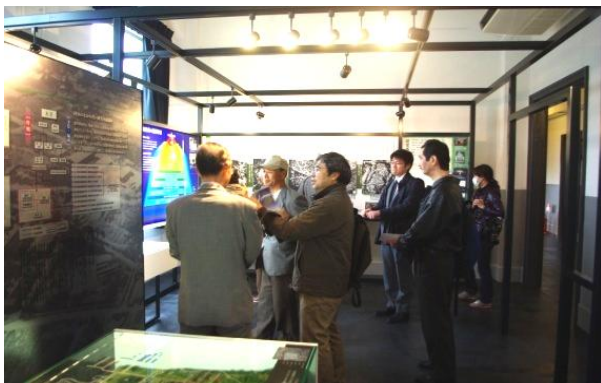
納谷廣美学長は開館にあたり、「過去に眼を閉ざす者は、現在に対してもやはり盲目となる」というヴァイツェッカー演説の一節を引用、研究所の記憶を継承すると同時に、歴史教育・平和教育・科学教育の発信地になることを祈念する、と当館の設立趣旨を述べました。来賓挨拶に続き、渡辺賢二明治大学文学部兼任講師から、発端となった市民と高校生の調査から今までの経緯について、紹介されました。資料館開館に際しての氏の多大なる貢献に対して、大学から感謝状が贈呈されました。元研究所員の大島康弘氏からは「証人がいるこの時代に

資料館が公開されることは、歴史上も意味があると思う。戦争は本当に嫌ですね。」とメッセージが寄せられました。

テープカットでは目頭をおさえる関係者の姿も。セレモニー後の見学会では、熱心に展示を観る人、解説を聞く人、メモを取る人々で館内は熱気に包まれました。



(写真：明治大学広報課提供)



## 4月7日より一般公開

4月7日の一般公開初日には、開館時間前から来館者の列が出来、開館と同時に館内が大変な賑わいとなりました。テレビ神奈川や北海道新聞、また海外からは韓国 SBS などメディアが取材に訪れ、当資料館に対する注目度の高さが伺われました。

この日の来館者数は220名と一般公開初日にも関わらず多くの方が来館されました。

(写真：公開日、解説に熱心に聞き入る来館者の様子)

## 館長よりご挨拶

生田キャンパスに明治大学平和教育登戸研究所資料館が開館しました。登戸研究所は、旧日本陸軍の〈秘密戦〉兵器開発のための研究所でした。〈秘密戦〉とは、防諜・諜報・謀略・宣伝の分野の戦いを指します。登戸研究所の前身は、1919(大正8)年に設立された陸軍科学研究所で、1937(昭和12)年に同研究所「登戸実験場」が開設され、1939年に「登戸出張所」と改称され、さらに1942年には第九陸軍技術研究所と改称・改編されました。この「登戸実験場」から1945年8月に解散するまでを通して「登戸研究所」と呼ばれています。本資料館は、旧登戸研究所の実験施設(植物を枯らす細菌兵器の開発棟)をそのまま保存活用したものです。明治大学が旧登戸研究所の

跡地と建物を購入したのは1950年のことですが、そのこと自体は偶然のことです。明治大学が旧陸軍の施設について残さなければならない義務はないのかもしれませんが、しかし、そうかといってこうした戦争遺跡を所有者である明治大学が意識的に残さない限り、このような戦争の暗部、裏面史は歴史から永久に消えて無くなってしまふ恐れがあります。私たちは、科学研究が「戦争」という大義名分のもとで、人間性を失ってしまった事例として、登戸研究所のありのままの姿を現在・未来に語り継ぎ、戦争と平和を考え、科学研究のあり方を自省する場としていきたいと考えています。どうか当資料館を見学していただき、戦争の裏側から、戦争の本質、日本が行った戦争の全体像を実感していただきたいと思います。



館長・山田 朗(やまだ あきら)

東京都立大学大学院博士課程，同人文学部助手をへて1994年より明治大学文学部助教授，1999年より教授。博士(史学)  
主著：①『軍備拡張の近代史-日本軍の誇張と崩壊-』(吉川弘文館，1997年)，②『昭和天皇の軍事思想と戦略』(校倉書房，2002年)，③『世界史の中の日露戦争』(吉川弘文館，2009年)など

## 開館までの経緯

川崎市民や高校生による陸軍登戸研究所の調査は今から24年前にはじめられました。とはいえ、防衛省防衛研究所図書室に行っても資料はなく、雲をつかむような出発でした。何回かの見学会をした際に、たまたま陸軍登戸研究所に勤務していた人に出会いました。そして市域から勤務していた人たちを紹介していただくことができました。いろいろな情報も寄せられ、『雑書綴』という陸軍登戸研究所の姿を伝える史料の提供を受けたのです。これが実相究明の第一歩となりました。しかし、秘密戦の兵器の研究・開発・製造をしていた勤務員の口は重いものでした。その口を開かせたのは高校生たちでした。「大人には話さないが君たちには話そう」と、陸軍登

戸研究所の様子を語ってくれるようになり、貴重な資料を提供してくれました。陸軍登戸研究所の保存と活用を求める市民や高校生の運動がはじまりました。陸軍登戸研究所に勤めていた人たちは登研会という集まりを持っていましたが、その会も保存と活用を求めるようになっていきました。一方、陸軍登戸研究所の跡地を使用していた明治大学も1990年代中葉からは学術調査を行い、保存と活用に向けて動き出しました。そして今年4月に、生物化学兵器を研究・開発していた当時の鉄筋の建物を改修し資料館として開館したのです。24年に及び市民・高校生、川崎市、そして明治大学の努力の表れといえるでしょう。



渡辺 賢二（わたなべ けんじ）

明治大学大学院講師，元高校教諭。高校生・市民とともに長年にわたって登戸研究所の調査・研究・史料収集・保存に携わる。

著書に『近現代日本をどう学ぶか』（教育史料出版会，2006年），『広告・ピラ・風刺マンガでまなぶ日本近現代史』（地歴社，2007年），『平和のための「戦争論」』（教育史料出版会，1999年）など。

## 資料館の紹介

### 設立の目的

登戸研究所（正式名称：第九陸軍技術研究所）は、戦争には必ず存在する「秘密戦」（防諜・諜報・謀略・宣伝）という側面を担っていた研究所です。そのため、その活動は、戦争の隠された裏面を示しています。登戸研究所の研究内容やそこで開発された兵器・資材などは、時には人道上あるいは国際法規上、大きな問題を有するものも含まれています。しかし、私たちはこうした戦争の暗部ともいえる部分を直

視し、戦争の本質や戦前の日本軍がおこなってきた諸活動の一端を、冷静に後世に語り継いでいく必要があります。私たちは、旧登戸研究所の研究施設であったこの建物を保存・活用して「明治大学平和教育登戸研究所資料館」を設立し、この研究所がおこなったことがらを記録にとどめ、大学として歴史教育・平和教育・科学教育の発信地とするとともに、地域社会との連携の場としていくことを目指しています。

### 展示のポイント

#### 第1展示室

○登戸研究所の活動の全体像と歴史

#### 第2展示室

○研究所のなかでも風船爆弾や電波兵器など、主に物理学を利用した兵器の開発していた第一科の活動内容



#### 第3展示室

○化学を応用した生物化学兵器やスパイ用品などを開発していた第二科の活動内容



（各展示室：登戸研究所時代の流し）

#### 第4展示室

○主に中国大陸で展開された経済謀略活動のために偽札を製造していた第三科の活動内容

（第2展示室：風船爆弾模型）

#### 第5展示室

○本土決戦体制下の登戸研究所と所員の戦後について

#### 暗室

○当時の実際の暗室の様子を再現

#### レストスペース

○登戸研究所が活動した時代背景を明治大学と川崎市の風景を交えて写真で概観

○登戸研究所に関する映像資料の放映



（第4展示室：偽造紙幣）

## 取材・報道一覧

2010年3月～6月の関連報道は 35 件（新聞

19・雑誌 2・テレビ 4・web ニュース 3・韓国のテレビや新聞 6・英字新聞 1）、主な見出しは右のとおりです（掲載順）。

NHK やテレビ神奈川の映像取材に加え、4月26日には韓国SBSのニュースでも「日本、秘密武器研究所」として取り上げられ、韓国を中心とした海外のメディアの注目も集めています。

資料館の開館、展示内容の紹介、開館までの経緯を述べた報道が大半です。戦争遺跡の保存・活用という「先駆的な取り組み」（4月25日付「神奈川新聞」）、「この資料館が、これからの歴史教育、平和教育のための一つの拠点となることを願う」（6月16日付「赤旗新聞」）など、評価と期待も寄せられました。平和学習で来館された、はるひ野中学校のみなさんの真剣な表情や感想も、5月21日付「神奈川新聞」で大きく紹介されています。

\*3月27日「時事ドットコム」

～『登戸研究所』資料館開館へ＝現存建物活用、明大キャンパスに＝川崎～

\*3月28日「朝日新聞」

～明大に秘密戦資料館 毒ガス・風船爆弾・偽札など展示 川崎、4月開館～

\*3月29日「日本経済新聞」

～旧陸軍謀略施設を明大が改修・保存『登戸研究所』～

\*4月25日「神奈川新聞」

～社説 登戸研究所 戦争の“裏面史” 後世に～

\*「稲田ニュース」4月号

～旧陸軍『登戸研究所』一部を『登戸資料館』として一般公開～

\*6月16日「赤旗新聞」

～朝の風（コラム） 陸軍登戸研究所～ など

## 来館者の声

### 学校見学より

5月20日（木）川崎市立はるひ野中学2年生57名と引率の先生方5名が、平和学習

の授業で資料館見学に訪れました。生徒たちは、山田館長と渡辺先生の解説のもと、資料館と生田キャンパス内の登戸研究所史跡を見学しました。資料館内では風船爆弾の気球部が和紙とこんにゃく糊で作られていたことを聞いた生徒たちから驚きの声があがり、普段食べているものが兵器として使われていたことに対する関心の高さが伺われました。以下、感想文を掲載いたします。

～はるひ野中学校見学感想文より～

「今回の見学は私にとって、今までなっとくできなかったことを、受け入れることができるようになる見学だったと思います。「そんなことに頭をフル回転させないでほしい」という思いがさらに強くなりました。」（中学2年生 女子）

「私は昨日登戸研究所を見学して、はじめて日本が戦争をやった裏の事実を詳しく知ることができました。私は戦争をすることというのをよくわかっているつもりだったけど、日本は原爆を落とされているということもあってか、どうしても相手国の方が酷いことをしたのだというように思ってしまうところがありました。でも、資料館にあった展示品などを見ていくと、日本も同じくらい酷いことをしたのだということがよくわかりました。そして考えを改めることができました。」（中学2年生 女子）

「戦争は、やはり人を殺し人を変えてしまうおそろしいものですが、逆にいうと科学をものすごく発展させたものだと感じました。その科学をまちがったことに使うとこんな戦争が起きるんだなと思いました。」（中学2年生 男子）

5月24日（月）専修大学山辺先生の歴史学D受講生約 140 名の学生が見学に訪れました。みなさん熱心に見学され、「生田に通い4年になるが、自分の身近にこのような重要な建造物があることを初め

て知った」など、自分たちの身近に旧陸軍の重要施設があったことに驚く声が多く寄せられました。

～専修大学生見学レポートより～

「生物兵器は空襲などと違い、防ぎようのないものなので一番おそろしい兵器なのではないか、と私は思いました。そのような兵器がこの登戸でも作られていたと考えるとやはり、その土地に住む私としては、嫌な気持ちになりました」（大学3年生 男子）

「過去の汚点」を残しておく、記事にしておくことで、自分のような戦争のことを余り知らない、というか現実であったことだと思えない人にはぜひこれを見てほしいと思います。（中略）これを見たからといって、過去の人々がやったことをつくなおととか、そういったことを思うわけではありませんが、これからの人生感が少し変わるかもしれません」（大学2年生 男子）

※教育機関団体見学のお問い合わせは 044-934-7993 まで。

### 一般来館者より

6月末までに寄せられたアンケートは 447 通、内訳は 10～30代 227名、40

～50代 50名、60代以上 137名、不明 33名でした。学校の団体見学により、10～30代の声が多く見受けられました。

「身近な場所でこのようなことが行われていたとは」（10代・20代女性）、「若い人に見てほしい」（70代女性）というご意見や、「歴史というものは、表面に出ている部分より、裏に起こった出来事が大切だと思います（中略）。それは、我々日常の中で何の思いもなく行っていたことが世間を動かしていることです」（50代女性）など、鋭い指摘もありました。

元登戸研究所所員の方がご自身の経験をアンケートにご記入、お話しして下さることも多々あり、貴重な資料となっています。

要望としては、開館日時の増加や図録・関連文献の販売、関連施設の保存、館の維持・拡充・PR活動、学内史跡や資料館までの案内板設置などが挙げられました。これらの要望をふまえ、関連文献の販売、ホームページの開設、案内板設置を行いました。

館のさらなる向上のため、ぜひ、アンケートご記入のご協力をお願いいたします。



## 4月～7月分寄贈・受入資料

資料館では、現在登戸研究所関係者への聞き取り活動・登戸研究所関連資料の収集を行っています。ご協力下さる方は是非、電話 044-934-7993 または、[noborito@mics.meiji.ac.jp](mailto:noborito@mics.meiji.ac.jp) までご連絡ください。

### 4月

- ・伴繁雄著「陸軍登戸研究所の思い出」
- ・冊子「印刷図書館ニュース」
- ・月刊731 展「登戸研究所 防疫給水部とのつながり」
- ・国民政府偽造法幣複写
- ・冊子「フィールドワーク陸軍登戸研究所」
- ・研究所員書簡

### 5月

- ・第4科所員集合写真（複写）
- ・元研究所所員勤務先社員手帳一部（複写）
- ・研究所所員ご子息より書簡
- ・登戸研究所関連新聞記事切り抜き（1998年8月14日付 東京新聞朝刊社会面、2010年3月9日付東京新聞朝刊25面、2010年3月29日東京新聞夕刊）
- ・1ドル軍票

### 6月

- ・研究所所員ご子息より書簡
- ・冊子「飯室上耕地 二十周年記念誌」一部（複写）
- ・雑誌「常陽藝文 2009/4月号」

### 7月

- ・研究所所員寄せ書き日章旗
- ・表彰状
- ・原嶋兼房氏自伝『自我の綴り』
- ・写真アルバム
- ・陸軍境界石
- ・陸軍少尉軍服
- ・焼夷弾
- ・薬莖

ご寄贈いただき、厚く御礼申し上げます。

## 資料館からのお知らせ

### 関連書籍のご案内

明治大学生田校舎学生会館1階の書店「丸善」にて、登戸研究所関連書籍を販売しています。

明治大学人文科学研究所叢書

「陸軍登戸研究所—隠蔽された謀略秘密兵器開発」

海野福寿, 山田朗, 渡辺賢二 (編)

青木書店 6,300円

「陸軍登戸研究所の真実」

伴 繁雄 著

芙蓉書房出版 1,500円

「フィールドワーク陸軍登戸研究所」

旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会 (編集),

姫田光義 (監修)

平和文化 700円

「戦争を歩く みる ふれるピースロード多摩丘陵」

川崎横浜平和のための戦争展実行委員会 (編集)

教育史料出版会 1,600円

「高校生が追う陸軍登戸研究所」

長野・赤穂高校平和ゼミナル

神奈川・法政二高平和研究会

教育史料出版会 1,600円

### ホームページのご案内

登戸研究所資料館のホームページを開設しました。

≪明治大学トップページ≫<http://www.meiji.ac.jp> からご覧いただけます。

開館スケジュールや、明治大学生田キャンパス構内史跡マップなどが掲載されています。

### 8月の休館日

8月11日(水)・12日(木)は休館します。その他は通常通り開館します。

＜開館のご案内＞ 水曜日～土曜日 午前10時～午後4時まで

※10名以上の団体見学を希望する場合は、原則、見学希望日の1ヶ月前までに、電話またはメールにて事前に予約してください。

※事前団体見学のみ、日曜日に開館する場合があります。

7月15日現在の来館者数は、  
**4,311名**です。

### 関連イベントのご案内

当資料館が開館したことに伴い、川崎市市民ミュージアム シネマテーク・コレクションにて、登戸研究所にまつわるイベントが開催されます。資料館で上映しているDVD「蘇る登戸研究所—平和への思い—」の上映と、本学文学部講師の渡辺賢二氏、DVDを監督した伊藤宏一氏他によるトークイベントが行なわれます。

日時：8月29日(日) シネマテークコレクション第一部

「蘇る登戸研究所」13:30から

主催：川崎市市民ミュージアム

会場：川崎市市民ミュージアム・映像ホール

料金：一般 600円、

大学生・高校生・シニア(65歳以上) 500円

お問合わせ先：川崎市市民ミュージアム(044-754-4500)



編集・発行：明治大学平和教育  
登戸研究所資料館

〒214-8571

神奈川県川崎市多摩区

東三田 1-1-1 明治大学生田校舎

TEL/FAX: 044-934-7993

Mail: [noborito@mics.meiji.ac.jp](mailto:noborito@mics.meiji.ac.jp)

<http://www.meiji.ac.jp/>